

2023.3.23 (木)
第33回例会
(通算3702回)

2022-2023 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で」

第85代会長 滝越 康雄
副会長 清水 輝彦
幹事 中島 政徳
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2022-2023 年度
国際ロータリーテーマ



2022-2023 年度
R1会長 ジェニアファー・ジョーンズ
第2500地区ガバナー
久木 佐知子 (旭川西 RC)

月間テーマ	水と衛生月間
本日のプログラム	講師例会「要約筆記って知っていますか？」(プログラム委員会)
次週例会	釧路ロータリーカップアイスホッケー大会報告(青少年奉仕委員会)

- ロータリーソング：それでこそロータリー
- ソングリーダー：天方 智順君
- 会員数 103名
- ビジター なし
- ゲスト 釧路要約筆記サークルあかり 河合 さおり様

会長の時間

滝越 康雄会長



会長挨拶をさせていただきます。
お食事の方はどうぞお続けください。
今日の壇上には副幹事2名の姿が

ありませんけれども、決してストライキではありません。1人は転勤ですし、1人は忙しいということで、初めての3人でございます。

本日は、お客様のテーマとして、『要約筆記』というお仕事をされています方のお話をお聞きしますが、私どもでも文字を理解するという意味では9月には「識字率強化月間」を設けて対応しております。その文字つながりで、私は識字力に関してお話をさせていただきます。

日本では、江戸時代における識字率では「75%が文字を読めた」と。当時の大英帝国イギリスでは20%～25%と、圧倒的に日本の方が文字は読めました。江戸時代において高い札と書いて「高札」、これは掲示板のことですが、それを五角形の板に組み込んだものがありました。これには奉行からの伝達事項などとても大事で、時には命に関わるような事柄も書いてありますが、お奉行さんが掲げてもさっぱり効果がなくて、よくよく調べて、ひらがなで書いたら今度は

効果ありでした。文字が読めない農民は10のうち9までが読めなかった。そのような内情でした。

ひるがえって話を展開して世界の話をして。識字に関する技術進歩でいうと、活版印刷の技術が急速に発達した時期があります。ここで、アルファベットとアラビア文字の差が出てくるわけです。アラビア文字はクニャクニャした字体ですけれども、アルファベットの英文字は26文字と少なく、図形的にシンプルだったことで、いろいろな航海術・料理法・計算・簿記などのノウハウを安く本にして提供できました。そこで識字力の優劣が出て、しいては情報の優位性が出て、昔は中世まではイスラム圏・中国が西欧より優れていましたが、この識字力の差によって西欧とイスラム圏・中国の立場が逆転してしまっていて、それは文字の形や印刷力などが大きな差になったということです。

もうひとつ別な角度で調べたら、文字が読めなかった時代は、キリスト教でも牧師さんの仕事に聖書の読み聞かせをするのがあるのです。一般の人が読まないかといったらその当時の聖書は羊皮紙で、羊の皮に文字を書いて聖書を作っていたので、1冊の聖書を作るのに数百頭の羊が必要ということで大変豪華でした。だんだん神父の話も限界になってきて、そこで活版印刷や紙などが普及して次々と印刷ができるようになり、そこで新約聖書が普及しました。その新約聖書の普及したおかげで一般にも知恵が付いてきて、それが

いきました。書籍で調べたら、例え、紙や文字といっ
てもこのように大きな差が付いたことが書かれており
ました。

この話は、本当は9月に用意していましたが、話
す機会がなく、ちょうど要約筆記の方がお見えになっ
たので、字に関連付けてご披露しました。

どうもありがとうございました。

幹事報告 中島 徳政幹事

幹事報告をさせていただきます。昨日、会員増強・
選考・職業分類委員会から来月の最終週に行われます
夜間例会に、『新入会員対象者をお招きして』という
新入会員対象者を推薦していただきたい旨の文書を流
させていただきますので、ご確認をお願いします。

例会が始まる前に聞いたことで、はっきりメールや
文書をまだ出せていないのですが、当会の会員・久島
貞一君のお母様あいこ様が北見の訓子府でお亡くなり
になられたということです。本日、北見市の『いいだ
市民斎場』でお通夜・ご葬儀が行われます。

例会が始まる前に聞いたものですから、皆さまへの
お知らせがこのような形になり申し訳ございません。ク
ラブからは、いつものようにお花とご香典をお送りさ
せていただきたいと思いますので、よろしくお願
いします。

以上です。

退会挨拶

北海道電力ネットワーク株式会社

釧路支店支店長 米倉 幸泰君

ただいまご紹介
に与りました北海
道電力ネットワ
ーク釧路支店長の米
倉です。



2020年3月に当地
に参りまして3年

と1カ月、皆さまには大変お世話になりました。

この間、コロナもありまして親睦の面では職業柄もあり
まして積極的に進んで皆さまと

親睦ができなかったことが心残りではございます。た
だし、毎週の例会におきましては、いろいろためにな
る講話、あるいは釧路地方の課題・問題点となるところ
もお聞きをして、北海道に住んでいる者としてとて
も勉強させていただいたことは私の3年間の大きな収
穫であったと考えております。

4月1日付で、北海道電力が2つに分かれていて分
かりづらいのですけれども、発電と小売りとホール
ディングスということで、持ち株会社側の経理部に参

ることになりました。

昨今、電気料金の高騰ということで、皆さまには大
変ご不便・ご迷惑をおかけしております。私なりに微
力ではありますが北海道のために何ができるの
か。このようなところを自問自答しながら精進して参
りたいと考えております。

最後になりますけれども、皆さまの益々のご健勝・



ご多幸をご祈念い
たしまして、退会
のご挨拶とさせて
いただきます。

大変お世話になり
ました。ありがと
うございました。

■本日のプログラム■

講師例会「要約筆記って知っていますか？」

プログラム委員会 村上 祐二委員長



皆さん、こんに
ちは。プログラム
委員会委員長の村
上です。本日の例
会は、先ほど会長
からもご紹介いた
だきました釧路要

約筆記サークル「あかり」さんから河合様を講師とし
てお招きした例会となっております。

皆さんは『要約筆記』をご存じでしょうか。私は知
りませんでした。それで、河合様が、ロータリーでは
ない他の団体で要約筆記についての講演をされたこと
を聞きまして、興味を持って調べてみました。すると、
知らないことばかりで、私は聴覚に障害がある方は手
話でコミュニケーションを取っているものと思ってい
ましたけれども、少し調べてみるとそんな簡単なこと
ではないことも分かりました。

今日は、河合様の講演を機会に、この『要約筆記』
についての理解を皆さんに深めていただければ幸いで
ございます。

それでは、よろしくお願いいたします。

釧路要約筆記サークル「あかり」 河合さおり様

こんにちは。釧
路要約筆記サーク
ル『あかり』の河
合と申します。今
日は、要約筆記に
ついて皆さまにお
伝えさせていただきます。限られた時間の中で、どれくらいお伝えでき



るのか分かりませんが、どうぞよろしく願いいたします。

では、最初に、皆さまの中で、要約筆記を知っている方がいらっしゃいましたら手を挙げていただけますか。はい、どなたもいらっしゃらないのですね。では、手話を知っている方はいらっしゃいますか。はい、ありがとうございます。そうなのです。手話は知っていても要約筆記は知らない、要約筆記は本当に認知度が低いのです。

ところが、聴覚障害者の中でも手話を日常のコミュニケーション手段にしている人は全体の2割程度しかいないと言われています。残りの8割の方は、日常のコミュニケーションが取れずに困っている。そのようなことで「話の内容を文字で伝えるものが必要だ」ということで、要約筆記が生まれました。

要約筆記とは、聞こえない・聞こえにくい人に話の内容を文字で伝える「通訳」ということなのです。話の内容を文字で伝えると言っても、全部は書き切れません。そこで聞こえてきたものを頭の中で要約します。つまり、分かりやすく伝わりやすい形に再構築して書いて伝えるのが要約筆記なのです。話し言葉を書き言葉に変換する。文字による同時通訳と言えば分かりやすいでしょうか。話し手が何を言いたいのか、その意図をつかみ、文字にして伝えるのが要約筆記という通訳なのです。

聴覚障害者といいますが、この3つに分けられます。「ろう者」は、手話を母語とされている方たちです。「中途失聴者」は、事故や病気で人生の途中から聞こえにくくなった人。そして「難聴者」は、補聴器を利用し聞こえを補っている人。これは、高齢になって難聴になった方で補聴器を利用して日常のコミュニケーションを取っている方が多いです。

要約筆記を必要としているのは、主に中途失聴者や難聴者です。中途失聴者や難聴者は手話の習得が難しいと言われています。言語の4活動、「聞く」「読む」「話す」「書く」を生まれてからずっと日本語で行ってきたからです。ですから、文字による通訳の要約筆記が必要になるのです。

次に要約筆記の方法をお話しいたします。要約筆記には、手で書く「手書き」と、パソコンに入力する「パソコン要約筆記」があります。それぞれには「ノートテイク」と「全体投影」があります。

ノートテイクからご紹介いたします。ノートテイクは、利用者が1人や2人の少人数の時に使う方法です。手書きでもパソコンでも利用者の隣に座り、書いてある紙や入力しているパソコンの画面を見てもらう方法です。

手書きのノートテイクで利用が多いのは、病院での受診や市役所、または補聴器屋さん、携帯ショップなどに手続きに行くことなどが多いです。このイラストの

ようにテーブルがある所ばかりではありません。病院の受診なども診察の時には椅子しかありませんので、そのような時はバインダーを持って行ってバインダーに紙を挟み、そこに話の内容を書いて伝える方法で対応をしています。

パソコンのノートテイクは、利用者が何かの講座を受講する時、講義の内容をパソコンに入力して通訳をします。会議に参加される利用者に通訳をすることもあります。1時間とか2時間の講義や会議では、長い時間かかることも多いので、要約筆記者が1人でずっと入力することは難しいですから、2人が交代しながら書いたり入力したりする方法で対応しております。聞こえない、聞こえにくい人が大勢参加する場合は、このノートテイクという方法では対応できません。そのような場合は、「全体投影」という方法で対応します。聞こえにくい、聞こえない人が大勢参加する時には、その場にいるすべての人に同じ情報を同時に届けるために、書いたもの・入力したものをスクリーンに投影する方法です。

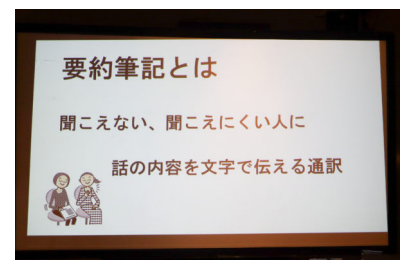
手書きの場合は、このイラストにもありますようにOHC（オーバーヘッドカメラ）という書画カメラの下に要約筆記専用のロールシートを置いて、そこに油性ペンで書いていきます。それをスクリーンに投影するという方法です。

パソコンの場合は、要約筆記専用ソフトで『IPtalk（アイピートーク）』というソフトがあります。それをパソコンにセットして、そこに入力をして、それを投影する方法で通訳を行っています。

大きな会場で長時間ということも多いので、要約筆記者も4人が1チームになって交代しながら要約筆記を行っていきます。これは手書きでもパソコンでも同じように行っています。

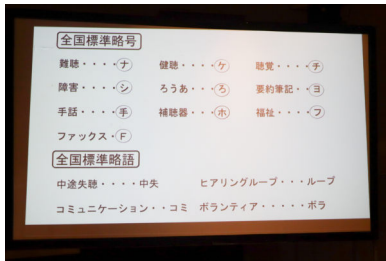
パソコンの場合は、入力のスピードが早ければ話に付いて行けますし、漢字も変換をすればすぐ出てきます。ところが、手書きは早く書こうとすると文字が乱れます。早い人でも1分間に60～80文字程度しか書けないと言われています。

そこで手書きの場合だけに使えるという「全国標準略号・略語」があります。これが全国標準略号・略語です。手書きの要約筆記のときにだけ使える、要約筆記者と利用者がきちんと理解をして使える「決められた記号」になっています。「難聴者」という言葉が話の中で出て来た時、これをすべて漢字で書くととても時間がかかります。それでは話に追いつけなくなってしまいます。「難聴」という言葉はカタカナの「ナ」を○で囲んで○ナと表します。そうすることによって話



に追いつくことができます。大切な話を書き落とさないようにするためにこの記号や略した言葉の「略語」が生まれました。

実際に利用する難聴者の方が知らない時は使えませんが、釧路でも毎月、難聴者の会「ひだまり」さんがあ



るのですが、そちらに通訳でお伺いする時はこの略号・略語はよく使われております。

「要約筆記は話の内容を要約して書く

通訳だ」と言われても、どのように実際に書いているのか分かりませんよね。それで、ほんの少しだけですが、例をご紹介します。

「今日は、こんなひどい雨の中、わざわざ遠くまで来てくれて本当にありがとうございます」とお話をされた人がいた時、それを私たちが通訳する時には、「雨の中、遠くまでありがとう」と、この一文で書いていきます。話し手の意図がこの短い文章でも十分に伝わるからです。

次の例は、略号・略語を使った例です。このようなお話しは難聴者の会ではよく話になりますが、「要約筆記を必要としているのは中途失聴者と難聴者です」というお話がされた時にも、「要約筆記はカタカナのヨを○で囲む略語」と決められておりますので「○ヨが必要なのは中失者と○ナ者」と書くだけで話の内容が伝わる。ほんの少しの例ですけれどもこのような形で話を要約して書いていきます。

要約筆記というのは文字による通訳だということを少しはご理解いただけたでしょうか。

では次に、釧路要約筆記サークル「あかり」の活動をご紹介します。釧路要約筆記サークル「あかり」の現在の会員は10名。でも、お仕事などでお休みをされている方がいるので、毎週8名で活動をしています。

毎週火曜日10時～12時に、川北町の身体障害者福祉センターで、要約筆記の知識・技術を身に付けるために勉強会を開いております。釧路中途難聴者の会「ひだまり」との交流もコロナになる前はよく行っていました。交流会を行ったり、釧路市の福祉バスを借りて「バスレク」で池田のワイン城や山花リフレへ行ったりして交流を深めておりました。コロナ禍になってからは中止になっていますが、「そろそろ復活させようではないか」と動き始めているところです。ではサークルの勉強会の様子をご紹介します。週に一度、2時間という限られた時間ですので、効率よく要約筆記を行うための知識や技術の研鑽に務めております。普段、怠けている手と頭を動きやすくするために「頭の体操」を最初に行っております。担当者に

出題してもらい、それを書き取る練習です。

要約筆記は、聞こえて来たことを一度頭の中にためます。これを「聞きため」と言いますが、その聞きためが上手になるために、数字やカタカナを言ってもらい、それを聞きためしながら書いていくという練習です。それから漢字の書き取りもします。いまはパソコンが主流で、「漢字は読めるけれど、書こうとしてもパツと出てこない、書けない」ということが多いので、漢字の書き取りの練習もします。

手書きの要約筆記では、漢字が出てこないとき・書けないときには、ひらがなやカタカナで書くことも許されています。ところが、ひらがなばかりを一文で書いても、それを通訳として読む利用者の目線に立った場合、ひらがなばかりを連ねていては読みにくい、意味が掴めないことにもつながるので、難しすぎない漢字は何とか漢字で書きましようということで、漢字の書き取りも頭の体操の中に入っております。このように手や頭を働かせるように、動かせるようになるためにサークルの最初の時間は、この頭の体操を行っております。

次に、実際に音源をかけて要約筆記の練習をします。手書きで書く人、パソコンに入力する人は、それぞれ自分で好きな方法で取り組みます。日によっては全体投影のチームワークの練習をする時もあります。これは手書きの全体投影の練習です。書いているテーブルの上に乗っている物がOHCの書画カメラで、この下に専用のロールシートを置いて油性ペンで書いていきます。それを、プロジェクターを通してスクリーンに投影させています。流す音源は担当者によっていろいろあります。自分で実際に話す人もいますし、YouTubeなどから講演会の音源を流す人もいます。

全体投影の場合、手書きでもパソコンでも、4人が1チームになって4人で交代しながら書いたり入力したりします。全体投影の場合は、2時間など長い時間の講演会や会議などが多いので、4人が10分交代で回っていきます。

4人にはそれぞれ役割があります。「メイン」は、その名のとおりメインに要約筆記を行う人で、メインが主に書いていきます。入力もします。そして、それを補佐する役割の人が



「サブ」です。メインの隣に座って、メインが聞き落としてしまった言葉や数字などをバインダーに挟んだ紙に書いてメモをして知らせる形でメインを補佐する仕事をしています。

ここで手書きをするロールシートですが、サララップのような形を想像していただくといいのですけれど

も、巻いているものを広げながら、延ばしながら、そこに油性ペンで書いていきます。そのために、手書きでは「引き手」と書いてあるロールシートを引っ張って前に進める役割の人もいます。その引き手がスクリーンをずっと見ていて、利用者にとって見やすい画面になっているかどうかを確認しながらシートを引っ張っていきます。

この写真には写っていませんけれども、4人目の役割で「待機者」という人もいます。その名のおり待機していますけれども、10分で担当を交代していきまので、待機者が時間管理をして「10分が経ったら交代だよ」と合図を出すのが待機者の役割になっています。

これは、パソコンの全体投影の練習の様子です。パソコンも手書き同様に4人が1チームになって行います。主に入力をする「メイン」、そしてそれを補助する「サブ」、そしてパソコンの場合はロールを引きませんので「引き手」という役割はありません。残りの2人が「待機者」となります。その役割を交代しながら長時間の通訳に対応します。

パソコンでは、それぞれが入力する入力用パソコンをハブでつないで表示機にまとめ、プロジェクターにつないでスクリーンに投影させる方法で行っています。

これは、ノートテイクの練習です。「要約筆記者役」と「利用者役」をそれぞれ行います。手書きのノートテイクでは、利用者の隣に座りA4の用紙にボールペンで書いて通訳をします。利用者によって文字の大きさや太さを決めて通訳を行っていきます。

パソコンでもやはり利用者の隣に座り、入力をしているパソコンの画面を利用者にってもらう方法です。ノートテイクの練習の時には、要約筆記者役がヘッドホンで音源を聞き、利用者役は何も聞こえない状況を作り、要約筆記を行います。利用者役の人はまったく何も聞こえていないので実際に書いてあるもの、入力してあるもので話の意味が分かるか、話の意図が伝わっているか、を見ていきます。利用者役をすることで、どのように書くと伝わりやすい文章かが分かるようになるので、自分の要約筆記力を高めることにもつながります。

手書きでもパソコンでも全体投影とノートテイクが

あることをお話しましたが、利用する人数・場所などでどの方法が利用者にとって最適かを考えたうえで決めています。

全体投影の練習でもノートテイクの練習でも、最後に通訳したものをみんなで検証しています。「ここはもっと違う表現にした方が伝わるのではないか」とか「これはとてもよく通訳できていたね。私も次はこう書けるようにやってみよう」などとみんなで見直していきます。他の人が要約筆記したのを見ることで学び合うこともできます。そして自分の要約筆記がより良いものになるように、できるように頑張っております。

今日は、要約筆記についてと釧路要約筆記サークル「あかり」についてお話をさせていただきました。上手にお伝えすることができたのか不安ですが、要約筆記は手話の使えない聴覚障害者に文字で伝える通訳だということだけでもご理解いただけたらと思います。聞こえない、聞こえにくいことでコミュニケーションが取れずに困っている方はたくさんいらっしゃいます。そのような方たちに文字で伝えることができると日々練習をしています。皆さまの周りに、もし聞こえにくいことでコミュニケーションが取れずに困っている方がおりましたら、どうぞ「要約筆記があるよ」とお伝えいただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

今日は、お話を聞いていただきまして本当にありがとうございました。

会長謝辞

貴重なお話をありがとうございました。

私も文字には自信がなくて、仕事を始めてから益々汚くて、暗号のような象形文字のように書いて、後から読めないのです。また書道教室からやり直さなければいけないかなと思っています。文字には全然、自信がありません。

本当に貴重な通訳のお仕事です。先ほど少し話をしましたけれども、英会話などの要約はかなり高度な技術だと思いました。益々活躍されることを期待しまして、謝辞といたします。

どうもありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 米倉 幸泰君 三年間お世話になりありがとうございました。釧路クラブの益々の隆盛を祈念しております。
- 小野寺 俊君 長男が「粘りと締め」の精神で無事、高校合格しました。
- 清水 輝彦君 皆さんにお祝いして頂きピカピカの1年生になったのでつい最近のことのようですが、この度6年生で附属前期課程を修了しました。皆さんの心遣いありがとうございました。
- 滝越 康雄君 WBC 決勝戦 日頃のモヤモヤ吹っ飛びました。日本相手とか敵に対して強いミラクル。神様をみた。日本人の結団力、日本人の底力体験したこと大きいです。

今年度累計 350,000 円